

# 討論場面におけるメタ言語の機能 — 談話の枠組み設定とその修正 —

西條美紀

## 要旨

討論場面において、話者はどのように談話を組み立て、聞き手は何を手がかりに人の談話を理解するのかを解明するために、実際の討論場面から60名分の談話資料を取り、実証的な研究を行った。その結果、メタ言語（言語に言及する言語）が談話の枠組みの設定と修正を行う事によって談話を組織化し、聞き手の談話理解を促進するという事がわかった。分析方法としては、量的分析として、談話資料にあらわれたメタ言語を機能分類し、各討論場面で何がどれくらい使われるかを算出した。また質的な分析として、個々の談話におけるメタ言語の使われ方をケーススタディ的に検討し、どのようにメタ言語が実際に機能を果たしているのかを分析した。

キーワード：メタ言語、討論場面、談話の組織化、談話理解

### 0・はじめに：聞き手に理解される談話とは？

近年、学校教育の中にディベートが取り入れられ、ディベートの仕方を解説した本も書店にも並ぶなど、有効な討論に対する関心が高まってきている。しかし、有効な討論の前提である、聞き手に理解される談話とはどのようなものか、また、聞き手は人の話を、何を手がかりに理解するのかについての研究はまだあまりない。話し言葉は一度口に出したら元に戻せないという意味で不可逆的であり、聞き手の反応を見ながら話すという意味で、相互作用的である。この話し言葉の特性をふまえ、聞き手に理解される談話の構造について考えたのが本研究である。

### 1・用語の定義

ここで使う用語を次のように定義する。

- 1) メタ言語：言語に言及する言語、討論の枠組みに言及する事も含む。これはスタップス（1983）の定義をふまえている。

- 2) 討論場面：一対多の公的な場で、公的な問題について即興で行われる意見表明とその交換。複数の日・英・米<sup>1</sup>辞書の定義をふまえている。
- 3) 談話：ひとまとまりの言語表現。ここでは、討論参加者による意見表明の部分、あるいは全体を指す。
- 4) 談話の組織化：話者が自分の話の方向と話題相互の結び付きを明らかにし、聞き手を意識し、聞き手に疑問を与えないような談話をする事。

## 2・仮説

本研究では次の仮説をたてた。

仮説：メタ言語は話の枠組を設定し、枠組を修正し、談話を組織化する。この仮説を検証するべく、データを集め、量的、質的な分析をした。

## 3・データ

討論場面として、ディベート、シンポジウム、テレビ討論を取り上げ、各場面で20名づつ、計60名分の談話資料を収集した。その内訳は以下のとおりである。

表1：調査対象者の性別と職業

	公務員	会社員	教師	団体職員	自由業	ボランティア	主婦	計
男	10	11	9	4	11	2	0	47
女	2	1	4	2	1	0	3	13

<sup>2</sup>

<sup>1</sup>広辞苑 第2版補訂版 岩波書店、国語辞典 集英社、日本国語大辞典 小学館、Oxford English Dictionary Second Edition, Webster's Third New International Dictionary. を参照した。

<sup>2</sup>調査対象者は日本語母語話者に限った。

表2：討論の命題と題目

ディベート	日時	ディベート命題・主催者
調査1	1993-7-27	就職協定を法的に強化すべし・MDIマネジメント研究所
調査2	1993-8-28	スポーツ振興サッカーくじを導入すべし・MDIマネジメント研究所
調査3	1994-2-19	日本は早急にスポーツのプロ化をすべきである。・MDIマネジメント研究所
シンポジウム	日時	シンポジウム題目・主催者
調査1	1990-3-6	街づくりと公共交通機関の色彩・公共の色彩を考える会
調査2	1993-8-28	100万人はなぜ学校を離れたのか・青土舎
テレビ討論	日時	テレビ討論題目・放送局
調査1	1994-2-12	日本の選択・「地方分権」をどう実現するのか・NHK
調査2	1994-2-25	「朝まで討論・日米関係は危機的な関係か」・テレビ朝日

これらの表から、本研究のデータは日本語を母語とする社会人が、公的な場面で、公的な問題について語る時の談話である事がわかる。

#### 4・メタ言語の機能分類と集計結果

上記の談話資料にあらわれたメタ言語を抽出し、その機能分類を行った。杉戸ら（1991）と古別府（1994）はメタ言語には談話の枠決めに関する機能と対人関係調整に関する機能があると述べたが、メタ言語が実際の談話の中でどのようにそれらの機能を果たしているかを分析するための分類は行っていない。本研究では、この点を分析するために、以下のような下位分類をたてた。

##### [1] 談話の枠組みを作る

①話題の提示：自分で話題を選び、そのことについて話すということを明確にする。

例) 定義ですけれども、問題分析に入りますが、

②焦点化：先行発話に焦点をあて、話題を展開する。

例) 肯定側の立論で言ったように、技術の向上とおっしゃいましたけど・・・

③サブポイント提示：話題のサブポイントを示す。

例) 4つの理由をあげていきます・、メリットは4つあげますが

④総括：1) 主張型：今まで言ってきた事が、何についてだったのかを示す。

例) 以上の事から、サマータイム制を導入すべしと主張いたします

2) 評価型：今まで言ってきた事について評価を加える。

例) ・・というような事が非常に大事なんじゃないかと思うのです

3) 前触れ型：これから言う事の要旨を言い、その後に説明が続く事を示す。

例) それを社会全体の規制という所へもって来るのは誤りだと思えます。この立場で議論したいと思えます。まず・・・

[2] 対人関係を調整する

①補整・修正：自分が言及した、あるいはする事に付言して相手への配慮を示す。

例) ・・・と言うと逆のようにも聞こえますが・・・

②混乱の提示：適当な言葉を探している事を示す、自分が混乱している事を示す。

例) なんて言いますか、ちょっとまとまりがつかないのですが

③言語行動の宣言：討論の構えを作るために自分のする事を宣言する。

例) ・・という立場で立論を始めます、反駁いたします

ここに挙げた、メタ言語の機能分類に際しては評定者をたて、分析者と評定者とは別々にディベート、シンポジウム、テレビ討論の各場面における談話のサンプルを<sup>3</sup>、上記の分類で分類し、分類の一致率を出した。

分類の一致率は、ディベート資料86%、シンポジウム資料70%、テレビ討論資料71%となり、この機能分類がある程度客観性のある分類である事を示唆する結果となった。

上記の機能分類を用いて、データ中のメタ言語の使用数を集計した。結果は以下の表のとおりである。

表3：討論場面別メタ言語機能の使用回数集計

\*表中、数字は各機能の使われた回数、括弧内の数字は機能全体に対する比率。

メタ言語機能	ディベート	シンポジウム	テレビ討論
話題の提示	31(22%)	11(12%)	9(13%)
焦点化	67(47%)	17(18%)	13(19%)
サブポイント提示	11(8%)	7(7%)	13(19%)
総括	16(12%)	26(27%)	25(37%)
補整・修正	2(1%)	23(24%)	8(12%)
混乱の提示	1(-)	9(10%)	0
言語行動の宣言	14(10%)	2(2%)	0
総計	142(100%)	95(100%)	68(100%)

この表からわかるように、同じ討論場面でも、討論の種類によって、使われるメタ言語の機能が違う。ディベートは、勝敗を争うゲームとして行われたので、対人関係を調整する機能は宣言の機能だけが使われた。自分のする事を宣言することによって、この論争がゲームであるというお互いの認識を確認しあ

<sup>3</sup>サンプル数はディベート4名、シンポジウム4名、テレビ討論8名分の談話を書き起こしたものの。テレビ討論のサンプル数が多いのは、他の資料では、1人の談話が3分を超えるのに対し、テレビ討論の談話時間は1分以内であることによる。評定者には、お茶の水女子大学日本語文化専攻修了生の清水知子氏をお願いした。

っていたものと思われる。シンポジウム、テレビ討論で、多く使われた対人関係調整のメタ言語は、補整・修正のメタ言語であるが、これは、しばしば、枠組みをつくる機能を果たすメタ言語と共に使われた。これについては、次項で述べる。また、枠組みをつくるメタ言語が、各機能相互にどのように組み合わせられて、談話を組織化するのかについては、質的な分析の項で述べる。

#### 5・補整・修正のメタ言語と枠組み設定のメタ言語との組み合わせ

表4・シンポジウム場面における組み合わせ

メタ言語組み合わせ	数	例
話題の提示→補整・修正	1	<u>交通機関は目立たせる事が肝心という話をしますと(1-1)*</u> 街の美しさを犠牲にしても移動という事を優先して移動する強いものを優先したというような考えに受け取られる事が多いのですけれども(2-1)
補整・修正→話題の提示	1	<u>一般的な話は(2-1)今の通りだと思います。もうひとつは(1-3)</u>
焦点化→補整・修正	1	<u>先程学歴社会の事をずいぶん言われてい</u> <u>るんですけど(1-2)、僕はこの学歴というのを、これは人から聞いたのの耳学問で(2-1)それを追従する形になっちゃうんですけど、・・・</u>
補整・修正→焦点化	1	<u>これまた変なあれなんだけど競馬のよみ</u> <u>じゃないんだけど(2-1)</u> 資格あ資格も選んでかなきゃねっていう話ありましたよね(1-2)

補整・修正→補整・修正→焦点化 →補整・修正 → 話題提示	1 (3)	わたしのほうにマイクがまわってまいりましたので(2-1)、わたしの主張と言いますか(2-1)、このパンフレットの冒頭に書いて有る事なのですけれども(1-2)、機能と良識にもとづく主張に共感が得られるかという曖昧模糊としているのですけれども(2-1) 機能というのは(1-1)
----------------------------------	----------	---

\* (1-1)は機能分類の話題の提示、(1-2)は焦点化、(1-3)はサブポイント提示(1-4)は総括、(2-1)は補整・修正機能を表している。

\*数は組み合わせの数。括弧の数字はその中で使われている補整・修正の数。1例の中に複数ある場合は括弧書きとした。

シンポジウム場面において、補整・修正機能が使われたのは23例だが、そのうち7例が話題の提示、焦点化という話の枠組みを設定する機能を持つメタ言語とともに使われている。

表5・テレビ討論場面における組み合わせ

メタ言語組み合わせ	数	例
話題の提示→補整・修正	4	決裂って言う話なんです(1-1)、皆さんがたはよくご存じだと思ってくれるもあえて言うと(2-1)
補整・修正→サブポイント提示	1	アメリカに初めてノーといったのは細川氏だと。それ自体間違ってますけどね(2-1)。そのみならずですね(1-3)・・・
総括→補整・修正	1	私はこれはこれでいいと(1-4)。それを大人か子供かは別としてね。(2-1)

テレビ討論場面の補整・修正機能の使用例は8例あり、このうち6例が上記

の表に示したように、枠組み機能との組み合わせで、使われている。

これらの事から、補整・修正の機能は話者が、自分の話の枠組みを作るにあたって、相手への配慮を示すという機能を持っていると考えられる。また、上記の例にも見られるように、自分の設定しつつある話の枠組みを緩和、あるいは修正しながら、話をすすめてゆくという機能もある。

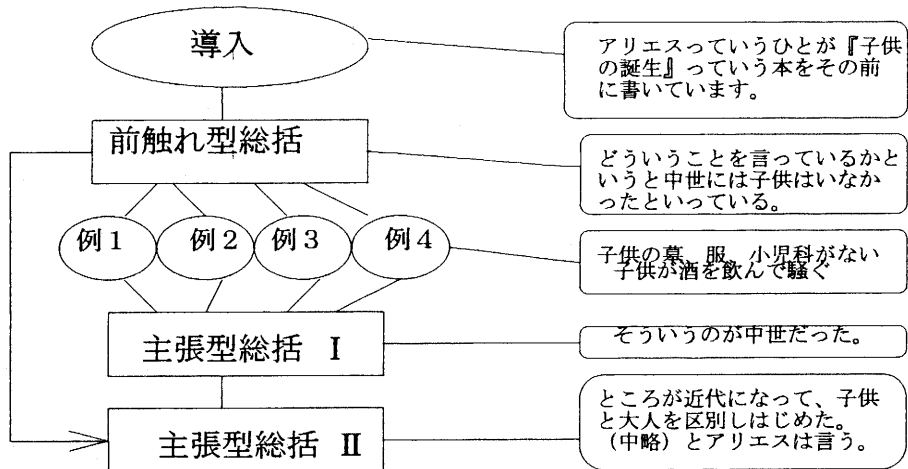
このような事から、補整・修正は対人関係を調整しつつ、自分の話の枠組みをも調整する機能を持っていると考えられる。

## 6・質的分析

前項で、各討論場面におけるメタ言語機能の使用実態を量的に概観し、各機能が、単独で使われるだけではなく、組み合わせで使われると言う事を述べたが、ここでは、実際の談話の中でメタ言語がどのように使われ、談話を組織化しているのかを、具体例をあげて述べたい。

以下に、組織化された談話を図式化したものをあげる。

図1 \*前触れ型総括によるスピーチの組織化 成功例



\*ここで四角はメタ言語を使っている事を表し、楕円はメタ言語を使っていない対象言語部分である事を表す。角のない四角で囲んだ部分は話者の言葉あるいは、その要約を表す。以下の図中においても同じ。

これは、シンポジウム場面での、大人と子供の区別はどのようにつけるかという質疑応答の中からの抜粋であり、ここで話者は、アリエスの『子供の誕

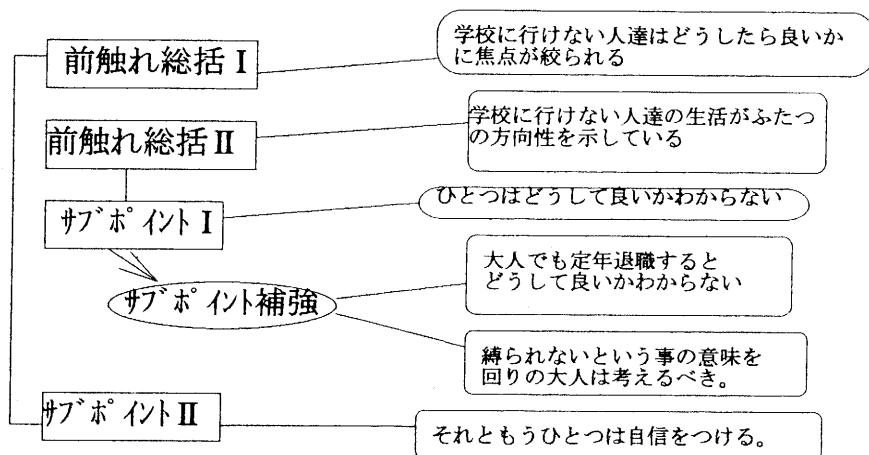


生』についての紹介をするという導入部に続いて、この本では「中世には子供はいなかった」と言っているという総括をし、談話の枠組みを設定している。そして、ここからシフリン（1980）の言う「聞き手にとっての新情報」が展開するという事を聞き手に予測させ、すぐ後に続く部分で例をあげて補強を行っている。そして「そういうのが中世だった」という総括Ⅰをして例をフォローしている。総括Ⅱでは、「ところが近代になって大人と子供を区別しはじめたとアリエスは言う」として、アリエスの主張を紹介するという枠組みに呼応させている。聞き手に予測を与えて、スピーチの枠組みを設定し、聞き手に与えた新情報のフォローをスピーチの枠組みに対応させる形で行っている。組織化の成功例と言えるだろう。

一方、メタ言語を使いながらも、談話を組織化できなかった例もある。

#### 前触れ型総括によるスピーチの組織化 失敗例

図 2



これは、シンポジウム場面で、不登校の子供達について論じている部分の抜粋である。ここでは、メタ言語が使われているにもかかわらず、全体として見た時に何を言いたいのかよくわからない。理由としては、前触れ総括が2回行われ、談話の枠組みが2重になっているためと考えられる。形式的には前触れ総括Ⅱの「ふたつの方向性」についてふたつのサブポイントが示されているが、内容が枠組みに呼応していない。サブポイントⅠは前触れ総括Ⅱに対応

し、サブポイントⅡは前触れ総括Ⅰに対応している。そのため、枠組みと内容の呼応がねじれてしまい、聞き手は話題相互の結び付きを感じられず、談話の組織化に失敗している。

#### 7・まとめと研究の意義

仮説の、「メタ言語は談話を組織化する」という点について、ここではふたつの例をあげて検証したが、本論文に先立つ修士論文（西條1995）では、メタ言語が持つ、話の枠組を作る機能について、それぞれの機能ごとに談話例を分析し、どのような場合に談話が組織化され、どのような場合に組織化されないのかを明らかにした。その結果、わかったのは、メタ言語によって作った話の枠組みと、話の内容とが呼応しなければ、談話は組織化されないという事である。聞き手に理解される談話の展開を目指して、話の枠組みを明示した話者は、たえず、枠組みを意識しつつ、枠組みから逸脱した場合には、それを修正してゆかなければならない。修正の方法としては、5で示したような、対人関係調整のメタ言語を談話の中に取り入れる事もそのひとつである。しかし、この修正の問題を考えるにあたっては、枠組みと内容との呼応にはどのような種類があるのか、文法的な制約はどの程度あるのか、また、呼応関係を成立させる要件はなにか、聞き手が呼応していると感じるのはなぜなのかなど、まだまだ検討するべき課題が多い。このような課題についての研究は、まだまだ見られないが、本研究で扱った討論場面の談話のように、まとまった事を聞き手に意図したとおりに伝えるには、この点についての究明は重要であると考えている。そうした究明によって、コミュニケーション理論、国語教育、日本語教育に対する貢献が可能になると考える。

#### ＝参考文献＝

- (1) Schiffrin, D. (1980) Meta-Talk: Organizational and Evaluative Brackets in Discourse. Special edition of *Sociological Inquiry*, 50, 199-236
- (2) Stubbs, M. (1983) *Discourse Analysis : The Sociolinguistic Analysis of Natural Language*. Blackwell

(3) Tannen, D. (1993) What's in a Frame?: Surface Evidence for Underlying Expectations. *Framing in Discourse*. Oxford University Press

(4) Watanabe, S. (1993) Cultural Differences in Framing: American and Japanese Group Discussions. *Framing in Discourse*. Oxford University Press

(5) 杉戸清樹・塚田実知代(1991)「言語行動を説明する言語表現—専門的文章の場合」国立国語研究所報告103 『研究報告集12』秀英出版

(6) 古別府ひづる(1994)「研究報告場面における口頭発表のメタ言語表現—留学生との比較—」『平成6年度日本語教育学会春季大会予稿集』

(7) 西條美紀(1995)「討論場面におけるメタ言語の機能—談話の組織化機能を中心に—」お茶の水女子大学大学院修士課程人文科学研究科日本語文化専攻修士論文

( お茶の水女子大学大学院博士課程人間文化研究科1年)